

CO₂が海洋生物におよぼす影響(1)

大気中の二酸化炭素(CO₂)濃度が上昇することによって、地球の温暖化や、海洋の酸性化などが起こっていると言われていています。このため、CO₂濃度の上昇が海洋環境へ与える影響を予測する技術や対策技術が検討されています。海生研では、経済産業省の補助金を得て(財)地球環境産業技術研究機構が進めるプロジェクトの一環として、海水のCO₂濃度の上昇が海洋生物におよぼす影響について研究を行っています。次回から、最近に得られた研究成果を紹介いたします。

(中央研究所 海洋生物グループ 吉川貴志)



海洋生物へのCO₂の影響は？

財団法人海洋生物環境研究所は、発電所の取放水等が海の環境やそこに生息する生物に与える影響を科学的に解明する中立的な調査研究機関として、農林水産省、経済産業省、環境省の共管のもと、昭和50年に設立されました。

これまで大規模発電所の取放水が生物に及ぼす影響の解明を中心に、食の安全・安心や海生生物の保護に係わる海洋環境中の微量化学物質や放射能の実態把握等の調査研究を国や民間からの委託をうけて実施しております。

海の豆知識 第31号

平成19年4月 発行

発行所

財団法人 海洋生物環境研究所

事務局 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29 帝国書院ビル5階 ☎(03) 5210-5961

中央研究所 〒299-5105 千葉県夷隅郡御宿町岩和田300 ☎(0470) 68-5111

実証試験場 〒945-0017 新潟県柏崎市荒浜4-7-17 ☎(0257) 24-8300

海の豆知識に関するお問い合わせは、事務局までお願いします。

<ホームページ> <http://www.kaiseiken.or.jp/>

かいせいけん

海の豆知識

Vol.31

★★★ 魚のことわざ ★★★



財団法人 海洋生物環境研究所

魚のことわざ

(その29)

——アイナメ——

海とその生物にまつわる^{ことわざ} ことわざ ^{かくげん} 格言についてお話ししましょう。
今回のテーマは、あいなめ(カサゴ目アイナメ科アイナメ属)です。

アイナメは漢字で鮎魚女、鮎並、愛魚女、愛な女などと書かれ、英名はGreenlingです。

また、地方名は様々あり、アブラコ(北海道)、ネウ・ネウオ・シンジョ(東北各地)、アイナ・エイナ(茨城)、ペロ(静岡)、シジユ(北陸)、アブラメ(関西以西)、ナメイオ・コモズミ(三重)、モズ(中国地方)、モミダネウシナイ(愛媛)、ヤスリ(長崎)などと呼ばれています。

アイナメは岸からそれほど遠くなく、比較的水深の浅い藻場や岩場に棲み付いているため、昔からよく釣られ、食され、親しまれてきました。そのため各所でさまざまな呼び方をしています。その姿形や行動が鮎に似ていたり、鮎のように縄張りを持つことから、“鮎のような魚”という意味で「鮎魚女」と呼ばれたり、体が脂っぽいところから「アブラメ」などとも呼ばれています。

体は紡錘形でやや側扁し、全長40cmに達します。体色は、普通は茶褐色、暗緑色、灰色のまだら模様ですが、産卵期の雄は鮮黄色となります。主な漁法は、刺し網や小型底曳き網などで、周年漁獲されます。また、遊漁対象としても人気が高く、磯釣りや船釣りが行われています。

早春や産卵期の秋から初冬にかけてが盛漁期ですが、食べ頃は晩春から夏にかけてです。刺身はコリコリと弾力があり、塩焼き、煮付け、汁物などに加熱しても身は軟らかく、くせがありません。

1

「鮎並は根を釣れ」

アイナメは日本全国沿岸の海藻の多い岩礁地帯(根)に棲む魚。従って根掛かりして仕掛けを取られやすいが、それを怖れていたのでは釣果が上がらない。メバルにも同義語がある。



2

「鮎並は追い食いを狙え」

アイナメは一度合わせ損なっても(抜き上げないで)そのまま30cmくらい上げて再び誘うのが釣果を上げるコツ。餌が付いていれば、必ずまた飛び付いて来る。一度目のコツンは、餌をくわえたときのものだから、糸を少し送り込み次のゴツゴツという、魚信(あたり)を待つ。この糸を送り込んで「魚信を聴く」呼吸と、二度追いさせるのがこの釣りの釣り技。